

NEMURO

人物図鑑

ねむろを愛する
素敵な人たち



うまく書くことよりも

楽しんで筆を運ぶこと

北方書道研究会

会長

高^{たか}

橋^{はし}

つとむ
勉^{つとむ}さん

(78)

今年のと「寅」の文字を見事に書き上げ「根室市が、元気になる一年になるといいですね。」と笑顔を見せるのは、北方書道研究会会長の高橋勉さんです。

研究会は、昭和47年に「ひたむきに書と向き合い、制作活動に視点をあて、広く地域にかかわって貢献、努力をする」を方針に、現在11名の会員で、毎日展、創玄展、道展などに出席するほか、研究会の書展開催など個性を生かした書への挑戦を続けています。また、昭和52年から年明けに開催される「子ども書き初め教室」の講師を務め、子どもたちに日本の伝統を伝えていきます。「冬休み期間でもあり、毎年多くの子どもたちが参加してくれます。宿題というところもありますが、今年一年の抱負や好きな言葉を書き上げることで、一年の目標が

見えてくるのではないでしょう。しかし、今はパソコンを使うことが多く、筆を持つ機会が少なくなっているのが残念です。」と、日本文化が薄れていく不安を感じているようです。

書道という「難しい」「手本通りに」という印象がありますが、思いのまま表現することが書道の楽しさだと言います。真っ白な半紙に書かれた文字は心の文字となり、将来の夢や希望へとつながっていきます。子どもたちへそのことを伝えるためにも、書き初め教室がよききっかけとなることを期待しています。

「個性を見ていくことを大切にしながら、基本も教えていくことで技術の向上にもつながっています。まずは、向かい合う機会をつくるのが、指導にあたる会員全員の思いとなっています。」子どもたちがこれからも、書道を通じていってくださること。そして、大人になってからこの書き初め教室を思い出して、筆を持つ機会を持ってくれればうれしいと話します。一年の始まりに、家族そろって、日本の伝統を楽しむ時間も、今の時代には必要なのではないでしょうか。